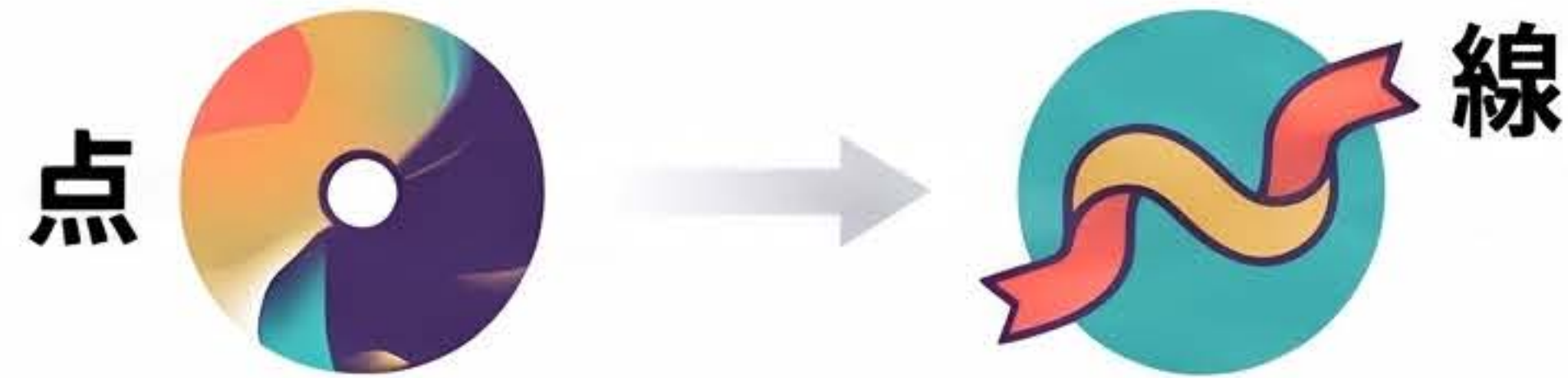


特許実務×生成AIの現在地：PatRe論文から読み解く「評価」と「実力」の距離

PatRe論文の核心：特許審査を「プロセス」で測る



「点」ではなく「線」の評価へ

従来の分類タスクを超え、審査通知→反論→補正という一連の流れを評価対象とした点が革新的。



審査通知

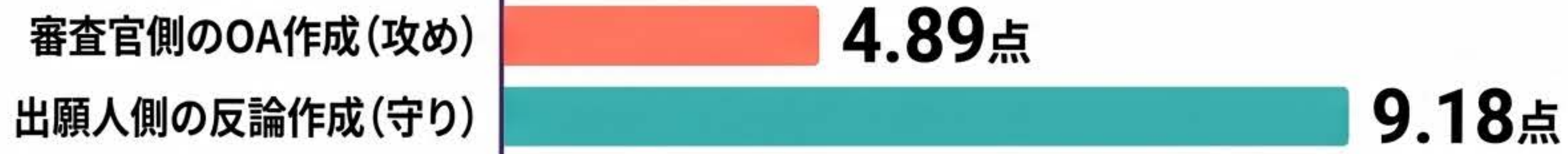


反論



補正

生成AIは「攻め」より「守り」に強い GPT-5-mini等のモデル



評価の二層構造



実務家が注視すべき「評価のギャップ」

AI採点と人手評価の深刻な乖離

生成AI(GPT-5-mini)における自己評価と人間評価の差

AI採点平均
(反論生成)
9.18点
(全体平均)
8.71点
(妥当性)
(10点満点)

評価対象	全体平均	妥当性
自動採点平均	9.18	6.85
人手評価平均	8.71	5.94

人手評価平均
(反論生成)
6.85点
(全体平均)
5.94点
(妥当性)
(10点満点)

「もっともらしさ」と「法的正解」は別物



もっともらしさ

「もっともらしさ」と「法的正解」は別物

専門的な文体で書けていても、技術的・法的な裏付け(新規事項の有無等)が不十分なケースが散見される。



法的正解

実務導入に向けた4つの区別



文章の存在



引用番号の一致



拒絶解消



技術的・法的に
成立するか

真に「技術的・法的に成立するか」を混同してはならない。